

第1回松本市平和三行詩コンクール 応募作品

一般の部

国思い愛しい人を祈る心は同じ道の上
なぜに分れた二つの道標 知るや歴史は 語れや君は
晴れの手柄をと祈る軍歌に 君死にたまふことなかれの詩に

君達少年がお国のために 盡(つ)くせるのは今ぞ今だ
先生は眉を上げ拳をふって叫んだ
太陸の大平原に沈む夕日に凜と立つ少年の夢は
長野県は開拓少年義勇軍の応募数日本一と共に消えた

1日の終わりにあなたが帰ってくる
疲れていてもいい 愚痴をこぼしてもいい 怒っていてもいい
あなたが無事に帰ってきてくれれば それだけでいい

大人よ為政者よ
英知を持ちて対話あれ
外交による国と国

「話せばわかる」
前世紀
首相の言葉甦る今

空腹は兄弟喧嘩引き起こす
満腹になり肩を並べてTV鑑賞
食事の力恐るべし

二言目(ふたことめ)にはわかってる
口答えする娘に自分の昔を思い出し
仕方ないかと自問自答

寝かしつけ
先にウトウトしていると「ママ起きて」と何度も起こされる

戦争を
知らない子ども
もういない

怖いを知って
平和を知るなんて
嫌だ

隣国の人々と手をつなぎ
譲り合い、助け合って、
世界の平和に貢献しよう。

平和外交を一生懸命やる政府を創ろう、
平和友好を一生懸命やる市民になろう。

また明日、って
何も考えずに言えるって
実はとても幸せなこと

彼らと私
生まれた国が
違うだけ

失われた沢山の命の上に
今、私たちは立っている
せめて立ててはいるだろうか？寝そべってはいないだろうか？

平和とは争いがなく、生きることには不安がないこと、
そして、時々笑いがあること。

平和をつくるのは兵器ではない、
民衆の声と筆の力である。

戦争を体験した父が語る
「戦争だけは絶対にしちゃいけない」
言葉の重み心に刻む

シベリア抑留を語る父から学ぶ
人間の尊さ
子等に語り継ぐ

新緑の 木々に囲まれ 少年野球
鶯の声 そよ風に乗って
平和の時の音（ね） 響かせる

自然の恵み 子供のピアノ
平和の音色 世界に響け
地球を守れ コアの心音 (しんおん)

赤紙一枚 叔父さん達は 戦場に散った
幼ない 従兄弟達は 遠い異郷の土と化した
戦後77年 その悲しみは ずっと消えはしない

澄み切った空の下 小学校の運動会
校庭いっぱい 子ども達の歓声が響きわたる
この子等の未来に No More War!

ウクライナ
侵略許した
平和主義

侵略させず
平和守るは
抑止力

隣の家が電気が点かない
どうかしたのかなあ
ケアマネさんに聴いてみよう

梅雨が明けた
大きな木の下で冷茶を飲む
木漏れ日が燦々

破壊の先に何があるのだろう
自由や喜びを得られるのだろうか
築いてきたそれぞれの日常を絶対に壊していいはずがない!

春の田んぼ道
子どもらと走る
同じ空の下の幸せを願いつつ

食べて寝て目が覚める
何気ない日常のなかで
時に笑えたら最高にハッピー

「いってきまあす」
「ただいまあ」
「あはははは！」

あかいランドセル
ふたつ並んで さくらんぼ
今日も元気に 行ってらっしゃーい

語りたくない
その時が
なくなるように

武力行使が全てじゃない
言葉で伝えて
平和になれないか

温かいご飯食べる
温かい布団で寝る
皆んなが出来るといいな

手と手を取り合い
歪み合わず
仲良くしようよ

侵略とは他国に侵入
その領土や財物などを奪い取ること
そし人命も損なう

かつての日本 中国を侵略
満州国をつくる 北支にもう一つの国をと支那事変に

事変とは宣戦布告なく、
小競り合いのようなものから
さて仕掛けたのはどっちだ

侵略した中国から手を引けと
応じぬ日本
米英に石油など資源止められ戦争に

日本海軍は宣戦布告前に
米海軍基地布哇（ハワイ）真珠湾を奇襲攻撃
未だに呪われている

戦争で財閥系軍需産業はしこたま儲けた
だが占領の米軍はこれを解体不明確に